

一手になる気



囲碁棋士

青葉かおり

いよいよアメリカの大学生たちに囲碁を教えることになり、意気揚々。でも、通訳無しというのがちよつと不安……。私の英語は通じるんきゃ？

初心者セットを両手に抱えドキドキしながら教室に入ると、中には20人以上の学生たちの姿がありました。

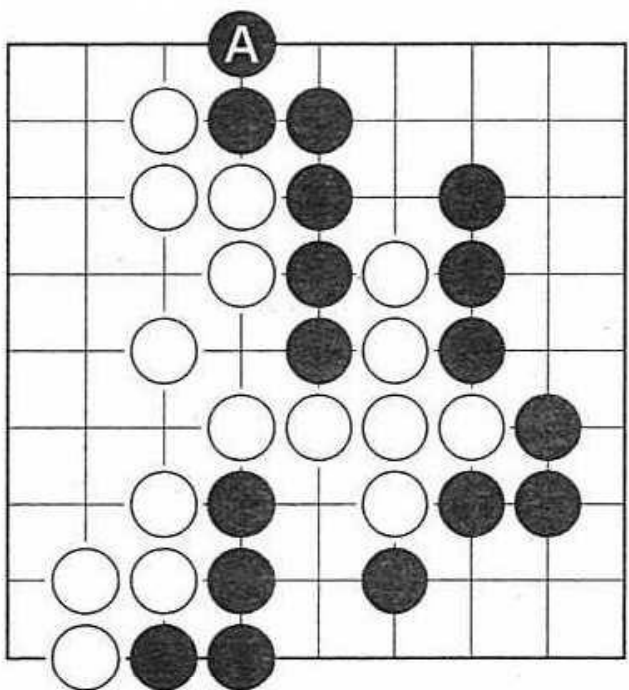
ええと、まずは挨拶です。

「Hello! I am Kaori. I am from Japan—」

とたん、学生たちの顔には明らかな困惑の色が……。

Oh! 私の英語は全然通じてにやあー!

固まる私と、静まり返る教室。



そこへ、救世主が現れました。

「カオリセンセイ。ボク、ニホンゴ、チョットデキマス。オテツダイシマシヨウカ」

彼は、お祖父さんの代に中国からアメリカに渡ったというリーくん(仮名)。私には彼の背に後光が差しているように見えました。

そこからは、不安に悩まされたのが嘘のように、入門講座は順調に進み、2時間後には、まったくの初心者だった学生たちが9路盤で囲碁を打てるようになりました。きつと私の教え方が良かったせいだなも(どうみてもリーくんの日本語力のおかげ)。満足。

終わった後は学生たちから感謝のメッセージまで手渡され、大満足。

人間、やれば出来るんだがね! 自信を深めた私は、リーくんをアシスタントにゲットして、更なる囲碁普及に邁進する予定だぎや。図は、囲碁入門講座に来てくれた学生たちの対局から。今、黒Aと打ったところです。あともう少して終局の場面、このまま何事も無く終わると黒の陣地の方が多そうです。しかし、ここで、白から良い手がありました。